

ウズベキスタン・サマルカンド州の概要

州都サマルカンドは首都タシュケントに次いで、国内2番目の経済的・文化的中心都市であり、世界的な観光都市。

かつては、シルクロードの要衝として栄えた地であり、本県とはシルクロードを通じ、古代から深いつながりがあった。

サマルカンド州は、かつてソグド人の交易の中心地として栄えたところであり、ソグド人と奈良県は深い縁がある。例えば、唐招提寺の4代目の住職である安如宝は、ソグド人であったと言われている。また、東大寺の大仏開眼法要の演舞で使用された伎楽面は、ソグド人をモデルにしたと言われている。このように、ソグド人との縁が数多く残っている奈良県にとっては、古代からのつながりを感じられる地でもある。

また、14世紀から15世紀には、ティムール帝国の都が置かれ、町にはその時代に建てられた青を基調とした壮麗なモスクなどのイスラム建築群が数多くあり、「青の都」とも評される美しい古都。



州知事	エルキンジョン・トゥルディモフ
面積	16,800 km ² (国土の3.7%)
人口	394.7万人 (2021年1月1日時点)
産業	自動車組み立て、たばこ製造、食品加工、観光
州都	サマルカンド市